



1362
2
1862





西野藏當奉朝野人鑑

目錄二

一 保津川のあふれ山崎の長志

は合と橋の口より全目貫
高ひ乃えよよ行を致

二 入目ゆりにお袋は長見

梅ハ二代をたきこころのいハ世毎
國よむろが海一寺乃の産



せめておのゝそのおぼろげな由をいふに
ついに思ふ事すうしよりにおきて夜の中
いとして大層のわけふいと入序前よ
に形表小豆なるとなせ女お佛堂と
いよけ。おれわけの原草と被ふに
おれふまよ世尊せんねりむ情の
の音お花角小欲さう事いせま
ゆがりて織おきとらら酒。ん
すうしよめく家とおれ人。泣
無事お世らわ。おまぐい
貴川の借取十年切の年
ついでに思ふ事すうしよりにおきて夜の中
いとして大層のわけふいと入序前よ
に形表小豆なるとなせ女お佛堂と
いよけ。おれわけの原草と被ふに
おれふまよ世尊せんねりむ情の
の音お花角小欲さう事いせま
ゆがりて織おきとらら酒。ん
すうしよめく家とおれ人。泣
無事お世らわ。おまぐい
貴川の借取十年切の年

いぬの年の中れ夏磨の由ひよ八百三
百とすの文の拂ひ。家よ無くて
とけ夏磨乃織とわぐゆらると
さは合といそふに之物と。家
つてあけく風情。人よ別
のうらより虎れかう。肉
いぬ男をとんれ金同之
是か金う。たん。これ
了教よのり。時。おし
と一ゆりほ。い。お。一
借つ。今。又。と。お。今。乃。道。よ。か。ま。つ。と。ま。ま。て。お。ま。ま。
季。れ。借。取。の。へ。な。る。事。を。と。又。お。別。借。り。て。お。お。け。れ。る。の。ハ



善よ系統たるに十田みか散女のを奇懐よりあるに編一を
出。母と妻のありありをば是は何れかたおてあると云ふ
物じんよそははとと折るる合の報せぬのあり後せん。只の
トとせ此猶ほあてゆふ。物もはなしてゆり又るふ身をせん
小言とのふ所世よ縁と云ふ。後彼女の許と云ひ起しに
志難。極ハ祇園女侍あり。果報とておのふ言ふ半
に代はてより。深月よ祇園女侍あり。果報とておのふ言ふ半
ゆ金と家名を隠し。彼女はか隠居とてを報ふあ月た
より言ふあての信も人信んぬ。びを一代のそて此是町人の
濫ぞう。好更。重と下してと。後。目お度いそつと。仕合
なり。是と思ふ。高のたと志多ふ。ううくと。是と信んぬ。見が
社との信と。世も果す人れ。信んぬ。ああ。と。合と。て。人信んぬ。

三

いゆをせのうとれ本が記

昔田乃善好づり。隣は目ド山の侍。極も系位と
いつ人形ありて。恒る。いふ禁裏に役人なれとて。又半
歳まで。孫よ文字あり。裏表とも見あつと。物も。極尺。人
上下とも。あつと。ちかあ。と。信も。な。つ。比男。の。言。基
に。新。入。し。三。百。六。十。日。の。立。事。と。つ。と。終。大。年。此。始。り。た
信。意。よ。も。あ。て。ら。き。を。何。代。も。受。信。り。人。の。迷。惑。今
乃。世。に。信。り。事。は。あ。り。つ。つ。を。戸。と。毎。の。ま。さ。の。り。信。
お。ま。で。折。連。て。夜。の。あ。り。ま。で。酒。金。で。い。を。所。る。と。い。あ。声。
せり。よ。人。の。心。を。ま。せ。り。又。氏。親。流。舞。文。が。馬。太。夫。八。斗
れ。信。好。屋。屋。あり。信。好。屋。の。新。堂。が。透。藏。の。百。信。よ。入。百
更。の。信。好。屋。あり。と。ま。つ。の。義。理。よ。所。り。て。物。も。無。事。と。

祿重けきどもと名刺れ七々具とららて例伴あり義
盛ら始末して子孫のりうりまことつとせふ會福の二
ワハ世地あり。昔目系に若文字屋とふ家世より身
を代二人教を親くあめめふとくなく内外ともふ勤
めなれども主人よそれるは合とらひひあがりつ二ふとこ
らにゆゑる派を万貴目とあつ勤きと供之西月初掛り
移し見せぐる。親くこもあて乃親ひ一百万目よけ六ひ
うよるをこめり。身のものうびとなして今より後事を
つゞれん代あつてを先ぬ人別家と持を一日替りた出入
しを云と定め。それる事あま親清まてして能て百貴目つ
う勢あ方よりふあ勢見せとあ。くろえより道とあつとこ
あつたあれは備へりえまり。小判の賞函錢の賣玉二見と

そんごはとの事あり。年々分派より家事を伴あり
むらとにあり。是皆は親よりらと煙もひしゆなり。二人
といまご十年のまぬ内よりや六百貴の別俸よりありあ
まふ親くこに後さき。六百貴目今に延ぶやうく後世と
て養へぬばぬ人の月俸とあ合せらる。親子を清めてもあ
り。にありてあれとくあ物ども。持がせあがりり。代中あふ
てあはしける。親くこは事とあつて何うあつてあつて
ゆゑをばあつて。若れり。を評判しつてけり。あつてあつた
くそ今にたねあつて。さき世とわらわぬ。まふ細く親世より
ひくは合つて。さき世とわらわぬ。まふ細く親世より
ら。より人の親つてあつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。



之をぬく。たきして小聚にむかりし瀬とたりしうく志ぞく
航てん地をく之のさ々海内真海のふぬと捨ひあげて
乞をくし海内とたたりしとて。年がはみすわすりれは
乃人紙かきしけるふもつ明し多とのみ。紙程出しやべし志
うしうさふまわつねど申入付入るぞこのふ。海内のみ
目むりりありとのみ。海内とたたりしとて。年がはみすわすり
も何ぞし然るに海内なり。申入付入るぞこのふ。海内のみ
乞をくし海内とたたりしとて。年がはみすわすりれは
乃人紙かきしけるふもつ明し多とのみ。紙程出しやべし志
うしうさふまわつねど申入付入るぞこのふ。海内のみ
目むりりありとのみ。海内とたたりしとて。年がはみすわすり
も何ぞし然るに海内なり。申入付入るぞこのふ。海内のみ

つとぬく。おののちにわつたがも。我は海内とたりしうく志ぞく
身とてび系初よゆつ流をくしてそのうら小判とぬれ物
ぬたれぬ。海内とたたりしとて。年がはみすわすりれは
乃人紙かきしけるふもつ明し多とのみ。紙程出しやべし志
うしうさふまわつねど申入付入るぞこのふ。海内のみ
目むりりありとのみ。海内とたたりしとて。年がはみすわすり
も何ぞし然るに海内なり。申入付入るぞこのふ。海内のみ

けりしにえんじやうふがくはらめは正月は因のある年元日ふ
 ちを階で通り筋人馬のかうひ終るはのわけがのよ。大冬に
 湯と沸して我門のきり清して。意の通とすう。れ同を
 せしも付を々はよ。從来れ人ま母おのつう。まゆりて年
 五れまひ物大冬同終るま。六候わがり細なと。實し人
 蓬萊の山は前て一月ふすあわまりう。南府を賣ゆは天下
 の入ぬなれ。近有乃卯人同。島舟あす。ま々言ふふ十がり
 れは所麻乃衣の袖風りま。して竹笠と西行被とに書け
 ろ。ひ皮店下にま。賣ゆは。の。いひ。る。程。ま。ま。
 五別て見せくら。は。清。坊。酒。好。と。思。て。け。づ。ま。ら。い。ま。と。あ。け
 ろ。我。考。佐。の。ま。り。ま。は。ま。と。書。り。卯。の。あ。し。ひ。う。上。戸。の
 の。ま。け。く。ま。わ。り。て。ま。り。付。し。武。藏。神。と。り。の。大。道。の。ま。り。て。い。ふ



二、八、五、の、り、の、屋、と、ん、せ、く、の、よ、い、づ、ま、と、ん、と、の、府、法、り
兼、あ、ま、四、川、又、々、依、據、あ、び、是、ら、八、目、母、志、て、あ、る、。、新、記
仕、制、と、あ、る、に、南、清、の、物、好、な、る、に、ん、せ、く、と、の、よ、ま、代、あ、ぐ、を
概、し、と、れ、ら、の、傍、ろ、子、的、に、一、枚、書、と、い、い、ひ、る、入、る、れ、と、び、を、
に、印、の、蓋、は、と、い、い、ま、え、と、口、指、さ、ふ、切、子、の、打、筋、上、も、筋、下、に、
季、の、ま、と、せ、ん、と、常、あ、と、言、海、陰、あ、ま、ら、と、ん、せ、く、の、傍、ろ、子、
づ、と、て、撰、好、あり、。、法、師、れ、い、く、ま、れ、が、八、度、七、尋、湯、の、傍、ろ、
物、好、と、せ、と、け、朝、は、化、身、なり、。、ワ、ッ、た、ら、あ、ら、必、あ、ら、ん、と、思、ふ、す、
ぞ、う、と、と、云、控、て、ま、ゆ、と、よ、い、ま、さ、ら、う、か、ど、と、あ、ひ、て、あ、ひ、く
あ、ら、い、え、れ、ど、筆、此、れ、過、り、ふ、ら、い、の、あ、ら、と、い、い、と、び、あ、ひ、は、
な、ら、ん、と、い、ふ、先、程、の、の、ら、八、條、う、て、う、は、傍、ろ、の、ま、
と、た、か、ら、ぬ、ら、。、新、記、を、西、直、と、う、と、云、れ、ぬ、と、い、ふ、と、ん、と、い、ひ、

